

### 【短報】ドウガネアナバケハネカクシ奈良県から初記録

ドウガネアナバケハネカクシ *Syntomium japonicum* Watanabe & Shibata, 1960 (図1) は東京都と神奈川県を基産地とする2頭の標本に基づいて記載され、その後1990年代まではごく少数の記録があるのみであった(渡辺, 1964; Kinoshita, 1972; 岡本他, 1994; 高橋, 1997)。しかし2000年代に入って、生息環境が赤土の苔の生えたところ、との観察結果が知られるようになってから、多くの採集記録がもたらされ、現在では本州、四国、九州の各地から得られている(三宅ほか, 2012; 宮田ほか, 2013;



図1. 全形図(奈良県産)。



図2. 採集地点(若草山山頂付近)。

Watanabe *et al.*, 2013)。ところが、近畿地方からの記録は未だに京都府からのみであった。このたび奈良県における棲息が認められたので、分布情報の一環として報告する。記録データは以下の通りである。

3♂♂, 6♀♀, 奈良県奈良市若草山・奈良公園, 23. X. 2016, 伊藤・吉田採集。

当日同所(図2)で多数の幼虫も観察されている。なお、この調査は奈良公園事務所からの学術調査入山許可のもとに行われたものであることを付記しておく。

### 引用文献

- Kinoshita, S., 1972. Some remarkable species of Japanese Staphylinidae (Coleoptera). Transactions of the Shikoku Entomological Society, 11: 98.
- 三宅 武・岡本 潤, 2012. 国東半島の昆虫補遺, 二豊のむし, (50): 46-49.
- 宮田隆輔・宮田俊江, 2013. 2009年にカーネットで採集した高知県のハネカクシ。げんせい, (89): 17-33.
- 岡本 巖・白石正人・山本栄治, 1994. 愛媛県のハネカクシ(3). 北九州の昆蟲, 41: 17-24.
- 高橋 敏, 1997. ドウガネアナバケハネカクシの採集。ねじればね, (75): 8-9.
- 渡辺泰明, 1964. 新潟県産ハネカクシ科目録(1). 新潟県の昆虫, (8): 7-26.
- Watanabe, Y. & Y. Shibata, 1960. Description of a new species of genus *Syntomium* in Japan (Col. Staphylinidae). Journal of Agricultural Science, Tokyo Nogyo Daigaku, 6: 103-105.
- Watanabe, Y. & Y. Shibata, 2013. Redescription of *Syntomium japonicum* (Coleoptera, Staphylinidae) with some new collecting records. Japanese Journal of Systematic Entomology, Matsuyama, 19: 221-226.

(伊藤建夫 614-8371 八幡市男山雄徳7, E12-102)  
(吉田正隆 770-0047 徳島市名東町1-295-1)

### <さやばね No. 23 の訂正とお詫び>

さやばね No. 23 の保科英人「地方新聞による世論形成から見た希少水生甲虫類保全事情」p. 30 左段で、筆者は「越前市白山地区で意図的なアメリカザリガニの放流が行われた」と書いた。しかし、その後の調査で、ザリガニの拡散経過の詳細は今となっては追跡不能だが、少なくともコウノトリのエサとして故意に放流された事実は全くないことが判明した。本号にて訂正するとともに関係者の方々に深くお詫び申し上げる。

(保科英人)